【授業科目】公衆衛生看護活動論Ⅱ（展開論） Public Health Nursing Activities Ⅱ

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
大谷 喜美江、佐藤 優子	３年次 前　期	選　択	２	３０	講　義	あり	巻末 掲載	可

授業概要 （内容と進め方） 及び 課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	授業概要／公衆衛生看護活動の中でも特に対象別（ライフステージや課題別）の健康課題とその解決・改善策・支援方法や保健師の役割とその展開事例を講義する。一部で演習を行うが、基本的には講義形式で教科書を使用し、適宜プリントを配布して行う。 課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法／提出された課題（レポート等）について、全体の総評コメントを講義の中で行う。
実務経験に 関する授業内容	保健師の臨地経験をもつ教員が、保健師として必要な対象別の健康課題や支援方法の知識について、事例を含む資料・教材を交えながら指導していく科目である。
授業の 位置づけ	本学のディプロマ･ポリシー②「人間の健康を環境との関係において捉え、地域社会の生活者の視点から看護の役割を考え、看護を実践することができる。」の達成に寄与している。
到達目標 （履修者が到達 すべき目標）	①対象別（ライフステージ・健康課題別）の保健の動向がわかり、課題が説明できる。 ②対象別（ライフステージ・健康課題別）の保健指導の内容および支援方法の実際がわかる。 ③対象別（ライフステージ・健康課題別）の保健活動における保健師の役割について述べることができる。
時間外学習に 必要な内容・時間	第1回～第15回事前学習：指定の教科書を事前に読んでおく。自分の居住市町村の保健活動について、広報やホームページ等で調べておく（各30分） 第1回～第15回事後学習：各回での学びを復習することで確認し、解らなかったことは調べまとめる（各30分） ※その他に、講義で学んだことを振り返るための課題を課すことがある（各60分） 図書館に下欄の参考書がそろっているので、学習の参考にすること。 ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位15回科目の場合：予習+復習４時間／1回）（１単位15回科目の場合：予習+復習1時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。
授業計画	第1回 成人保健活動①：地域で生活する成人の健康課題　佐藤 第2回 成人保健活動②：地域で生活する成人の健康課題への支援方法　佐藤 第3回 高齢者保健活動①：地域で生活する高齢者の健康課題　大谷 第4回 高齢者保健活動②：地域で生活する高齢者の健康課題への支援方法　大谷 第5回 母子保健活動①：地域で生活する母子の健康課題および母子保健システム　大谷 第6回 母子保健活動②：妊娠期および新生児期の支援の実際/計測演習ガイダンス　大谷 第7回 母子保健活動③：乳幼児訪問指導の計画立案・準備（計測演習）　全員 第8回 母子保健活動④：乳幼児訪問指導の実施・評価（計測演習）　全員 第9回 精神保健活動①：精神障害をもち地域で生活している人びとの健康課題　大谷 第10回精神保健活動②：精神障害をもち地域で生活している人びとへの支援方法　大谷 第11回難病および障がい者・児保健活動①：難病・障がいを持ち地域で生活している人々の健康課題　佐藤 第12回難病および障がい者・児保健活動②：難病・障がいを持ち地域で生活している人々への支援　佐藤 第13回感染症保健活動①：感染症、感染症患者の特徴と疾病管理の課題　大谷 第14回感染症保健活動②：感染症、感染症患者の健康課題への支援方法　大谷 第15回歯科保健活動：歯科保健の課題と支援方法／まとめ　大谷
評価方法 評価基準	レポート(15%)、授業態度（15%）、試験(70%)で総合的に評価する。

教科書	標準保健師講座3『対象別公衆衛生看護活動』 医学書院 公衆衛生がみえる メディックメディア	参考書等	看護法令要覧　日本看護協会出版 国民衛生の動向　厚生労働統計協会 保健師業務要覧 日本看護協会出版
学生への 助言等	図書館に参考書などがそろっていますので活用してください。 四日市市や居住自治体の HP なども参考にしてください。		